

オオヤマズミ・オオヤマヅミ・ヤマズミ・ヤマヅミ

大山祇神・大山津見神・大山積神。

オオヤマズミというのは『大山統み』という意味で、
大山（神奈川県伊勢原市の大山）周辺の地を治める国守の世襲の名。
サクラウチーオオヤマカグツミーマウラ が代々オオヤマズミを
勤めました。

神奈川県伊勢原市大山、阿夫利（アフリ）神社

神奈川県高座郡寒川町宮山、寒川（サムカワ）神社

愛媛県越智郡大三島町宮浦、大山祇（オオヤマズミ）神社

『オオヤマズミの 応えには 上祖の記す 歌にあり 諸守乞えば
ヤマズミが 謹み曰く』4文

『思わず抱く 夢心地 覚めて潤ひ 快く 宮に帰れば
ヤマズミが ささ酒進む』4文

『大老翁の ヤマズミが 寿ぎ歌ふ ”むべなるや 往きの宜しも
御代嗣も 弥々の幸 開けり”と』4文

『大優らに 寿くも 三度に及ぶ 往き宜し』4文

『左はタニの サクラウチ 弥の桜の 鳴らし歌
右はヲヲヤマ カグツミの ”研ぎ優ぐ芳ぐ” の 祝歌』14文

『”二十年に 渫えなせ” とて サカオリの 宮に入ります
預りの オオヤマズミが 御饗なす』24文

『オオヤマズミは キヅサキの 仮屋に迎え 御饗なす
膳なす時 アシツ姫 ”妹 孕めり” と申す故』24文

『行く皇宮は ヤマズミの 道迎えして 御所に スワ守
会えば すばしりて サカオリ宮に 入りまして』24文

『アスカ川 オオヤマズミは これ写し サカムの小野に
新田成し 橘の木 植えて マウラ守 代々 ”橘の君” となる』24文

『オオヤマズミが 巡り回て ヨメ路行く北の 峰に納む
”胞衣が岳” 成る シナの国』28文

『時にソサノヲ これを斬り 身をヤス形と 祭る故 またヤマズミの
姫と生まれ 妹を妬む 罪の連り』28文

『梅宮の ハフリ 穂積の治人に イツアサマ御子 ヤマヅミの
四神移して 和す川原』32文

大山阿夫利神社から望む富士山



サクラウチ・サクラウシ 桜大人
タニのサクラウチ
桜大刀白（サクラノオオトジ）

オオヤマズミの祖に当たる方です。アマテルの内宮(正后)に上ったセオリツ姫、南局の内侍のワカ姫、オホヤマカグツミの父で、アシツ姫(コノハナサクヤ姫)の曾祖父です。
古くはハラミの宮で、ウオヤオキナ(大老翁)として両神イサナギ、イサナミに仕えていました。その後、アマテルの右の臣となりました。イサワの大内宮の桜を「夫婦の道のつく離れるを計る」と捧げました。

千葉県佐原市香取、香取神宮末社、桜大刀白神社
山形県東田川郡庄内町立谷澤字本澤、月山・大満・小月山神社
山梨県富士吉田市上吉田小御岳下、小御岳神社



この桜 昔曾祖父
サクラウシ この木捧ぐ
大御神 大内に植えて
妹背の道 和る離るるを
計ります
桜意あらば
わが孕み 他種ならば
木菱め 真種ならば
生む時に 咲けと誓いて
ここに植え 里に帰ます
御機之二十四 コエ国ハラミ山の文

御機之二十四でアシツ姫は
不実の妊娠を疑われて、他の男性の
種ならば、桜の花がしぼむように、
ニニキネの種ならば、季節関係なく
産むときに咲いてほしいと願を懸けるのです。
願いは聞き届けられ白子の桜は咲き続けて
ニニキネはその奇跡を知り反省して歌を妻に
贈っています。

